

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270102221		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム サニーライフ篠田		
所在地	038-0011 青森県青森市篠田三丁目20番23号		
自己評価作成日	平成27年9月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成27年10月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、利用者と同じ目線に立ち、アットホームな雰囲気の中で家族の一員と感じていただけるように接している。利用者一人ひとりの能力を把握しており、日常のなかで発揮できる機会を作れるようにし、利用者同士が助け合って生活出来るよう見守り、支援をおこなっている。また、地域とのつながりも大切に、地域の行事へ参加したり、グループホーム内の行事に参加していただくことで、理解を深めてもらっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

職員一人ひとりが地域密着型サービスやグループホームの理念に基づき、利用者の尊厳を尊重したケアを行っている。また、市街地に立地し地域との交流も盛んに行われており、地域に根差したグループホームとなっている。家庭的な空間の中で、利用者はそれぞれに楽しみを持ちながらゆったりと生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念・心得を復唱し、職員全員で共有し日々意識出来るようにしている。又、ホール入り口など数か所に掲示し、いつでも確認出来るようにしている。	数年前に、元々ある理念に地域密着型である意義を追加して玄関やホール等に掲示している。朝礼等の際には唱和して、職員は常に理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や、グループホーム行事への参加をして頂けるよう会議時や回覧板に載せている。近くの幼稚園・保育園の訪問も行って頂いている。近所の床屋・美容室を利用したり、廃品回収など町内の一員として生活出来るよう配慮している。	町内会に加入しており、地域で催される行事や祭り等へ参加するだけでなく、幼稚園児が訪問に来たり、グループホームの夏祭りに地域住民が参加したりと、日頃から地域交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、町内の方々にも参加して頂き、当グループホームの中身を伝えている。他にも2か月に1度ホーム便りを発行して認知症の方の理解が得られるような内容を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、グループホーム内での様子、取り組みなどの活動報告をしている。会議の中で出た意見については、スタッフにも周知出来るように資料・報告書を回覧している。	毎年当該年度の計画を作成した上で、2ヶ月に1度開催されている。ほぼ毎回家族や他事業所の参加者もあり、比較的多い参加人数の中で、双方での情報発信や意見交換がなされ、サービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点は、市役所へ問い合わせたり、地域包括支援センターに相談、報告し、アドバイスをもらい解決出来るよう努めている。他に消防などから避難訓練の指導を受けている。	グループホームからの情報発信や市役所からの連絡やアドバイスをもらう等、情報共有を図っている。また、制度上の不明な点等も、その都度確認しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修へ参加し、グループホーム内の勉強会で研修の内容を報告したり資料の回覧をしスタッフ間で周知出来るようにし、身体拘束の趣旨を理解し業務に取り組んでいる。交通量も多く、川沿いの為施錠をしているが、希望時はなるべく外出出来るよう努め、不安、苦痛にならないよう理解し、ケアに取り組んでいる。	外部研修への参加の他、毎月の勉強会で伝達研修等を行い、身体拘束をしないケアの周知と対応がなされている。また、マニュアルを作成して、事務所や各ユニットに設置し、常に基本に沿ってケアを実践出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やグループホーム内の勉強会で取り入れ、虐待に関する知識や理解を深めている。理解した上で意識し日々のケアを提供している。又、入浴時に全身のボディチェックを徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会へ取り入れ、理解を深めている。その際、職員が講師となり研修資料を参考にしたり、外部講師を招き、より知識、理解を深められるようにしている。又、家族にも制度を伝えたり、一緒に説明を受け検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前説明と契約時に説明をしている。又、内容の変更時や不明な点がある場合には管理者が窓口となり十分な説明をした上で理解して頂けるよう対応したり、いつでも言ってお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の近況報告にて状態を報告したり、面会時などご家族と本人様と話す機会を設けている。要望があった際には検討し対応している。又、玄関に意見箱の設置を行っている。	家族の面会時には必ず、近況報告と共に意見や要望等の吸い上げも行うようにしている。また、積極的に家族との関わりを持つことで、気軽に話せる雰囲気が作られるよう努めており、頂いた要望等はケアへの反映がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを開き、意見や提案などの情報交換を行っている。又、年1度のほか希望時に代表者と話す機会を設けている。	定期的に管理者との面談の機会がある他、毎月のミーティングで職員の意見や要望の引き出しに努めている。また、日頃から話しやすい関係性が築かれている為、必要に応じてサービスへの反映がなされている。	
		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より相談や意見がある時は、代表者が個別に相談にのり、向上心が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、主任が職員の仕事を把握し、必要な研修を受けられるようにしている。入社後、3ヵ月、6ヵ月で個人面談を行い、個人の力量を認識している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入っており、研修会や交流会に参加している。意見交換や交流できる場を設けることで連携の機会が保たれており、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りを大事にし、悩みや不安を把握できるように努め、信頼関係を築くことも意識しながら対応している。家族に違う場所で聞き取りや話を聞く事もある。又、入居前は事前見学をもらい、当グループホームの雰囲気確かめてもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行っている。本人の状態の確認、家族の要望等について、本人の代弁者でもある為、傾聴し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態の確認、把握を行い、ケアマネジャー、看護師、職員と連携しサービス提供出来るよう努めている。第一に何がしたいのか、何を求めているのかをアセスメントし対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の残存機能を見極め、1人ひとりの力量に合わせた活動を取り入れている。グループホームとして職員が共同しながら生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのつながりを大切にし、本人にとって良いケアにつながるよう職員が代わること、家族でしかできないことを説明し、ケアに取り入れ共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の会話の中で馴染みの場所の把握に努めているが、最近は馴染みの場所への外出に至っていない。近隣の床屋の利用で、関係を続けている方もいる。又、県外等遠くにいる方もいる為、手紙や電話での関係を続けている方もいる。	本人の馴染みの関係把握に努めており、関係性が途切れないよう、手紙や電話、年賀状作成等の支援を行っている。また、希望があった際には馴染みの床屋の利用や、選挙投票・近所への買い物等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格、関係を把握し、生活空間の作成をしている。利用者同士のコミュニケーション時、やりとりを大切にしながら、必要時は間に入り、関わりがもてるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、家族からの相談に応じ、これまで築いてきた利用者や家族との関係が継続するよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的な確認の他、日常の会話や表情、行動などから、どう感じているのか、どうしていきたいのか、思いを汲みとるようにしている。	本人や家族から予め情報収集を行った上で、センター方式を活用している。その後は、日頃から本人の言動や表情等から意向や思いの汲み取りに努めており、職員間で情報共有しながらケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族から、本人から生活歴を聞きとって把握に努めている。又、途中で知り得た事は、家族に確認をとったりし、家族、スタッフで共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子、状態を記録に残し、職員間で把握している。施設内でのリズムになっしまっているが、個々の好みや時間、残存機能を発揮できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らし続けるために可能な限り、本人からの聞き取りや記録にてまとめている。現状、方向性を伝え、家族の意向の確認をしながら計画作成をしている。	日々のアセスメントや家族からの意向も確認した上で、全職員でケア会議を行い、計画を作成している。また、PDCAサイクルに沿って定期的にモニタリングや見直しを行い、現状に即した計画作成がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や状態変化、ケアの実施状況や職員の気づきを工夫し記録に残している。又、申し送りやミニカンファレンスで随時対応変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズ対応出来るよう、理念をモットーにグループホームの特性を活かし対応している。グループホーム内だけでなく、個別外出や専門科受診の付き添い等対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターまつりや敬老会、近くの神社での花見や宵宮もあり楽しませている。グループホームでの夏祭りは町内のイベントになっている。町内に唄や踊りを披露してくれるサークルがあり、依頼し地域の方々と協力し合いながら行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、月2回協力医の往診となっている。入居時にかかりつけ医の確認をしている。日常的な管理は協立医で必要時、主治医の指示のもと専門機関の受診などで対応している。	かかりつけ医については、入居時に説明した上で本人や家族の希望に沿うように対応している。また、協力医は月に2回の往診の他にも訪問があり、医療機関との連携が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、グループホームの看護師へ報告、相談を出来るようにしている。また利用者の状態に応じて都度報告し、指示を仰いでおり、看護師も状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は翌日には情報提供を作成し、渡して本人の状態把握をしてもらっている。早期退院できるように病院と家族との説明や情報交換を行い、連携体制をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にグループホームでのターミナルケアについて説明しているが年々状態変化もある為、1、2年に1度、現在の状態を説明した上で希望の確認をとっている。看護師と協力医と共有をしている。又、ケアプラン作成、説明など家族と話し合って確認をとっている。	終末期に関しては、入居契約時にグループホームでの方針を説明した上で、家族の希望を確認し、対応している。また、状態変化時等にも家族と十分に話し合い、看護師や協力医とも情報共有を図り、支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に取り入れている。又、各フロアに緊急時のマニュアルがあり、いつでも見れるようにしている。夜間帯における緊急時の連絡もすぐ見える位置に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も協力をお願いし、年2回日中・夜間想定避難訓練を行っている。他にも川が近い為、水害時の避難訓練をグループホーム内で1回実施している。	年に2回、昼夜様々な想定のもと訓練を行っている。大がかりな訓練の際には消防への立会いも依頼しており、訓練には日本防災や地域住民の協力も得られており、協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格を把握し、言動を否定せず一人ひとりの人格を尊重し、その方に合わせた言葉かけや状態に合わせた対応を行っている。	職員一人ひとりが心得を念頭に、利用者の尊厳を大切にして言葉掛けするよう努めている。トイレの声掛けや誘導の際もプライバシーに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も無理強いせず、ご本人様の希望や要望を引き出せるような言葉かけや、自己決定を働きかけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が主体である事を常に意識し、一人ひとりのライフスタイルに合わせた支援をしている。外出希望時は個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、外出時等着たい服を選んで頂いたり、身だしなみを整える事が出来るよう、個々の力量に合わせた言葉かけや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量に合わせ、食器拭きや片付け等の家事に参加して頂いている。食事の際は楽しく食事して頂けるよう言葉をかけを行っている。週に1度お好みメニューや、月に1度弁当の日を取り入れている。	献立の記入や盛付け、片付け等、個々の能力に応じて家事参加の支援を行っている。また、毎週ローテーションで利用者1名の好みのメニューを提供したり、お弁当の日を取り入れる等し、食事を楽しめる支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の量は月に1度測定している体重や、状態に応じ看護師の指示にて量を決めている。食事は毎日の記録に残している。個々の状態に合わせた味付けや形状にし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を外して口腔内に腫れ等がないか確認し、口腔ケアを行っている。就前時には洗浄剤に一晩浸け消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握できるようにしている。個々の時間に合わせた言葉かけを行いトイレでの排泄が出来るように支援している。失敗が増えた場合は再度検討している。	排泄表を活用して個々の排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行い排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や希望者にはヤクルトを提供し、午前のおやつ時は果物を提供している。昼食前には腹部マッサージを行っている。それでも排便がない時は、下剤を調整し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週に2回、入浴が出来るようにしている。一人ひとりに合わせ同性介助やお湯の温度、シャワー浴等の対応を行っている。拒否があった場合は無理をさせず、翌日にするなどの対応を行っている。	基本的には週2回の入浴が行えるようにしている。個々の好みの温度や、希望する順番及び同性介助等で入浴が楽しめるよう努めている。また、希望があれば週2回以上入浴やシャワー浴が行えるよう体制も整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせ、食後や入浴後に居室やソファにて休んで頂いている。室温や湿度に気をつけ、快適に過ごして頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルに挟み、職員がいつでも確認出来るようにしている。個々の状態に合わせた服薬の介助を行い、服薬前に必ず職員間で確認し誤薬がないよう、飲み忘れがないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや作品作りを行い、活気がある生活を送れるよう支援している。本人が主体となり楽しめるよう、集団や個別でレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、外気浴や散歩を行っている。外出の希望時は対応できるよう支援している。	日頃から天気のいい日は外気浴を行ったり、月に1度個別に外出の支援を行っている。また、希望があれば、その他の個別外出も対応できる体制にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の難しい入居者の方の金銭はグループホームで管理しているが、本人の希望時には好きな物を購入できるように支援している。外出時等、本人が支払出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話を掛けたり、遠方の家族へ手紙を掛けるよう家族や大切な人と疎遠にならないよう支援している。毎年、年賀状の作成を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日(日中・夜間)、室温と湿度のチェックを行っている。ブラインドで光の調整を行い、季節を感じて頂けるようホールの装飾や写真を掲示している。	室温・湿度チェックや採光調整を行い、居心地のいい空間作りに努めている。また、行事やイベント時の写真等、職員と利用者が共同で作成した装飾を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内で気の合った方とそれぞれゆったりと過ごして頂けるようソファを設置したり雑誌や新聞、写真ファイルを置いている。玄関先にはテーブルや椅子を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使用していた物や馴染みの物を持ってきて頂き、家族と相談しながら本人が、安心して過ごせるよう支援している。	本人の馴染みの物は、タンスやテレビ・仏壇等、大きな制限はなく持ち込んで頂いて配置しており、居室が居心地のいい空間になるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室前や、トイレ、浴室が分かるよう表札を設置したり工夫している。		